

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272000235		
法人名	有限会社 慈恵会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	長崎県対馬市美津島町根緒7-8		
自己評価作成日	平成21年12月18日	評価結果市町村受理日	平成22年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自宅で暮らしているような家庭的な環境作りと家族的ケア ・出来ることを伸ばす自立支援に向けたケア ・施設全体(内・外)の花を絶やさない環境美化 <p>利用者が安らぎと喜びのある毎を送りたいという、家庭的な生活環境の雰囲気作り、尊厳ある生活の重視に於いてゆったりマイペース、プライドやプライバシーへの配慮をしているが、今後は地域社会との交流等に力を注ぎたい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>広大な海を眺望でき、ゆったりとした庭は自然と季節が感じられるホームである。職員は利用者が心地よく過ごしてもらえるような配慮を心がけており、生け花や観葉植物を絶やさず、掃除、換気は徹底されている。利用者の自立支援に力を入れており、口腔ケアの徹底は咀嚼力向上に繋がり、おから通常食になり食事を楽しむ事に繋がっている。職員はケアマネージャーと連携し見守り支援ができるよう、日々の記録、介護経過支援記録、申し送り伝達の徹底が次の介護計画に繋がっていることは当ホームの優れている点である。個々のアルバムにはコメントが添えられており、様々な記録が家族の安心にも繋がっている。利用者が安心して暮らせるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・感謝の心・奉仕の心・敬いの心を理念として掲げ、この目的に沿って利用者に接している。	「感謝の心・奉仕の心・敬いの心」を理念として掲げ、管理者と職員は常にミーティングなどで共有している。利用者を人生の先輩として尊敬し、個々のやるべき介護を話し合い、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年数回のボランティアの受け入れを行っているが、なかなか難しく当施設から率先して交流は図っていないのが現状である。	自己評価では交流不足とあるが、実際には地域のボランティアの方々による定期的な踊りや歌などの慰問があり交流が行われている。また、民生員の見学会など開催したり、地域の祭などの行事へ出かける支援にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に対しての積極的な取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議は行っていないが、市の監査でも指摘があり、今年はずり開催したい。	以前は、運営推進会議を実施されていたが、現在は行っていない。	地域の方々との関わりや情報収集、施設の取り組みを発信する機会、意見交換による事業所の更なる質の向上に向けて年6回の運営推進会議を実施が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員との情報交換の機会を設け、ケアやサービス向上に取り組んでいる。	包括支援センターや市職員と積極的に連携を取っている。困難事例の場合には相談をしたり、介護保険についての情報交換、利用者の状況についても報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束に対して正しく理解しており施設全体で取り組んでいる。	普段から、身体及び言葉の身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ミーティング等でも話し合い、頻繁に話し合いの機会を設け理解を深めている。玄関は施錠されておらず、日中は職員が見守り支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で取り組んでいるといえる。		

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は後見人制度について学ぶ機会はなかったが、制度は理解している。現在利用している方はおられないが、必要に応じて活用しようと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解と納得は得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には周知は出来ていて、面会時等に要望などの声かけを行っている。	家族の面時には、利用者の生活状況を報告し、話をしている。また、遠方の家族には電話連絡など随時行っている。月に1度は利用者の生活状況を文書で報告し、家族や本人からの希望があれば話し合い反映できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などでの色んな意見や提案は可能な限り反映させている。	ミーティングの際に職員は意見や提案を言える環境があり、研修やシフトなど反映された例もある。悩んでいる時も、先輩や管理者が相談に乗ってくれる関係が出来ている。また、施設運営についても、代表者から話がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境となるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得等の為の推奨を促し、自意識の向上を持つように助言などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日常の対応に追われるばかりで現状では取り組んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身の状態を深く理解し、不安や要望等を聞き入れながら安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事等、時間をかけ話す機会を設け受け止める努力は行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族又本人の意向や思いを聴き、今何が必要なのか見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、共に楽しんだり悲しんだりして暮らしの中でお互いの信頼関係は良好に築いているといえる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いに近づき寄り添いながら個々の情報を共有する事で、本人を支えていく関係は良好に築いているといえる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人への電話や面会、又馴染みの場所へのドライブなど出来る限り支援は行っている。	馴染みの場所に外出したり、手紙を出したり、友人の面会を受け入れたり支援に努めている。中には、以前自宅で生活していた時に利用していた手芸店で買い物される利用者があり、継続的な支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係等は職員は充分把握しており、状況に応じて場面を作り良い関係が保てるよう見守りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからもご家族からの電話や相談なども多くその都度支援しフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から思いを汲み取り出来るだけ本人本位になるよう努力している。	買い物、おしゃれ、外食など、個別の希望や意向を把握し対応している。情報は申し送りノートを活用したり共有されている。利用者に応じては、家族にも協力してもらったり、これまでの記録から検討したりしながら、利用者本位に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境等、本人やご家族から情報を得て経過等の把握は出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録、日々の勤務記録申し送り等詳細に記録しており、職員全員現状は把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフとのケアカンファレンス、半年ごとの見直しは行っているが、ご家族等との話し合いは十分に出来ていない。今後はご家族の充分な意見を取り入れたい。	新規利用開始時は1ヶ月のモニタリングで見直しする。毎月カンファレンスをし各利用者思いを目標に組み入れしっかりと実施し記録されている。長期6ヶ月の見直し前に家族の意見を取り入れるように努めている。	利用者の介護計画には家族の意見が重要であることを、家族へ向けて発信し、情報収集に協力してもらえよう。これからも継続して努められることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアや気づき、心身の状態などに個別に記録しており職員間で情報は共有できていて見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望や状況に応じて柔軟に対応し取り組んでいる。		

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が生き生きと安全に生活でき、本人らしく暮らせるよう、地域のボランティアなどの協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や本人の意向を聴き入れながら、協力医療機関や個人病院など受診し、又緊急時の時間外受診等も適切に受診が来ている。	かかりつけ医の継続は可能で職員が受診支援も行われている。協力病院とは夜間緊急対応連携もとられている。利用者の入院時の医師、家族との連携も適切に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師はいない。しかし、受診の際は「受信時ノート」に詳細に記録しており適切な情報は提供でき相談も充分に出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を詳細に提供(ケアパス)し、主治医や看護師等と密に連絡とり、ご家族とも情報交換をしながら退院に向け話し合いは充分に行っている。故、病院とは良好な関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に向けた話し合いは、早い段階からご家族や主治医と連携をとり今後に向けた方針を共有している。しかし、口頭での説明は行っているが、文章化は出来ていない為、今後は、書面上、重要事項説明書に明記したい。	入居説明時に重度化・看取りについて口頭で説明がなされており、利用者の身体レベルが落ちた時など状態に応じて、職員との話し合い、医師・家族と話し合いがなされ適切な施設の話し合いがなされているが、文章化されていない。	事業所の重度化・看取りの方針は文章化し、家族に説明時に渡し同意を取り、互いに方針を共有することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の要領は壁に貼っており、緊急や急変に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に於いて、年2回消火・避難訓練を実施する事としており消防署と連携をとり実施している。今後の取り組みとして、地域や隣接の住民との協力体制と築きたいと思う。	年2回の消防避難訓練が消防と一緒になされている。夜間想定も行われている。初期消火の訓練も行われているが、地域との連携体制がこれからである。また、自然災害時の対応策もこれから準備される場所である。	事業所の立地状況から鑑み、地域連携体制が望ましい。また、自然災害対策についても、考慮されておくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格や尊厳を尊重し、誇りやプライバシーが損なわれないよう職員一同徹底を図っている。	利用者への声かけは基本敬語であるが、個々親しみのある声かけにしており、馴れ合いにならないように職員同士気がけている。個人資料は事務所に保管されている。守秘義務の誓約書も作成されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた話し方で日々コミュニケーションを図り、本人が思いや要望を出せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に合わせたケア、ペースを大切にしながら希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容室やお化粧品などその人らしい身だしなみが出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り、好みや食べやすさなど個別に工夫して一緒に楽しみながら食べて頂けるよう配慮している。又可能な方は配膳や下膳のお手伝いをお願いして能力に応じた支援を行っている。	利用者の状況に応じて、買い物や、配膳、下膳、食事の下準備などの手伝いをお願いしている。旬の素材や地元の献立、パンの日など取り入れている。糖尿食対応も行われている。職員は見守りや介助支援を行いながら、利用者が一緒に食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量等、毎食時チェックを行っている。 毎月初めには体重測定を行い、体重管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは当施設の取り組みとして、毎食後徹底して行っている、能力に応じたケアを習慣として実践している。(チェックシートに記録)		

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿や排便のチェックは毎日の業務としており、その人の排泄パターンは職員全員把握している。個々に合わせた誘導や声かけを行っている。	排泄パターン表を作成し把握することにより、排泄誘導を行っている。日中のリハビリパンツ使用がパット・布パンツ支援になった軽減支援の事例もある。夜間のみポータブル使用者もいるが基本的にトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維摂取、適度の運動などの予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は基本的に決めてはいるが、その人の体調や気分に合わせて対応は柔軟に行っている。	基本は週3回の入浴日である。シャワー浴や足浴は毎日対応している。職員が入浴介助を行い、着替え等できることは自身に行ってもらっている。拒否は声かけ誘導で対応している。季節の湯や個々の湯温など入浴を楽しむ支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活習慣やその時々状況に応じて、毎日午後1, 2時間休養の時間をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月の定期受診時に貰う、薬記録で確認しながら職員全員が理解をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳、下膳、掃除、洗濯物たたみ等、個々の能力に応じた役割や楽しみ、又食材の買い物等気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調面に配慮しながら本人希望やご家族の意向に沿いながら散歩やドライブなどにお連れしている。	利用者の希望や体調に応じて、天気のよい日はドライブに出かけたり、買い物に出かけたり、広い庭を散歩したり花を摘んだりしている。またホームの行事にも外食やドライブを盛り込み、全利用者が外部との交流ができる場面作りを大切にしている。	

グループホームやすらぎの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在本人で管理できる人はおられないが、買い物など行った際は可能な限りご自分で払う事が出来るようサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出して欲しいと持ってこられた方もおり、その都度対応している。又電話も要望があれば話せるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花や観葉植物、季節感のあるタペストリーや置物など、穏やかに季節感を感じ、皆さんが居心地よく過ごして頂けるよう十分に工夫配慮している。	ホーム内は明るく、テレビの音量は適切で職員の行動も穏やかである。季節のタペストリーを利用者全員で作って飾ったり、生け花や植物を絶やさないようにし、利用者が綺麗だと感じるようにリビングなど工夫されている。掃除も行き届いており、定期的な換気も行われ快適な空間となるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には入居者全員が座れるソファを配置しゆったりとしたスペースを設け、入居者同士で楽しく過ごせる空間が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの馴染みの家具や日用品を持参して頂き、本人が居心地よく生活して頂けるよう工夫している。	ホーム内と居室との温度差が生じないように職員が温度管理をしている。居室へは個々の使い慣れた物を自由に持ち込むことができ、居室で自由に過ごすことができる。掃除に参加する利用者もおり、自分の居場所の大切さを職員は支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせた環境整備、混乱を避ける為のポスターなど入居者の皆さんが自立して生活できるよう工夫している。		